※ポリシーとの関連性　外国語の教育と文化

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	アジア文化特論	前期	木７	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本　敏	１年	研究室：5-501 メール：kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
アジア文化理解および異文化理解教育

メッセージ
基本的に日本語で講義します。外国語の文献資料も使います

到達目標
アジア文化についての理解を深めると同時に異文化理解を教育することについての基礎知識を身に付ける

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	登録確認とオリエンテーション	シラバスのチェック
2	文化の定義と異文化理解	調査研究
3	アジアの地理と歴史	調査研究
4	アジアの地理と歴史	調査研究
5	アジアの言語（言語地理・言語形態）	調査研究
6	アジアの言語と文化	調査研究
7	儒教と漢字文化圏　（レポートテーマと研究計画の提出）	調査研究と執筆
8	漢字文化圏以外のアジア	調査研究と執筆
9	アジアの植民地時代と文化	調査研究と執筆
10	アジアの宗教と哲学	調査研究と執筆
11	沖縄の文化	調査研究と執筆
12	異文化理解と異文化理解教育とは	調査研究と執筆
13	アジアにおける教育界の体質について	調査研究と執筆
14	アジア文化の纏め	発表会の準備
15	リポート提出と口頭発表	添削と修正
16	質疑・討論の整理	添削と修正

テキスト・参考文献・資料など

初回の講義でシラバスに照らしながら紹介する。マルチメディア（視聴覚教材）を活用しながら視覚的にも聴覚的にも文化に対する理解を深める。

学びの手立て

テーマはyoutubeパワーポイントやDVDおよびパワーポイント等を使用しながらディスカッション形式で進めますので、毎回の出席が大変重要です

評価

レポート（50%）と口頭発表（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米文化特論

※ポリシーとの関連性　批判的に考える思考力、またそれを理論的に検討・報告するアカデミックスキルの習得を目的とする。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英語学特論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火５	2
担当者 里　麻奈美	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	開講前はm.satoアットまーくokiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に受け付けます。	

学びの準備

ねらい

この講義では『英語学習と促進要因』『ことばと思考・心理・発達』をテーマに取り扱う。心理言語学・認知言語学における論文を、じっくり丁寧に読み上げることで、理論と研究手法を学んで欲しい。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。

メッセージ

英語学習に影響を与える要因について、科学的知見をもとに学んでほしい。

到達目標

この講義を受講し理解した学生は、研究を進める上で必要なロジックや研究手法、ならびに英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」を身につけることができる。また、個人の研究テーマの足がかりを見つける事ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
2	言語学習における「五感」の役割【概要】	講義内で適宜指示する
3	言語学習における「五感」の役割①	講義内で適宜指示する
4	言語学習における「五感」の役割②	講義内で適宜指示する
5	言語学習における「五感」の役割【ディスカッション】	講義内で適宜指示する
6	教育における子供の非認知能力【概要】	講義内で適宜指示する
7	教育における子供の非認知能力①	講義内で適宜指示する
8	教育における子供の非認知能力②	講義内で適宜指示する
9	教育における子供の非認知能力【ディスカッション】	講義内で適宜指示する
10	教育における子供の認知発達・社会性と情動性の発達【概要】	講義内で適宜指示する
11	教育における子供の認知発達・社会性と情動性の発達①	講義内で適宜指示する
12	教育における子供の認知発達・社会性と情動性の発達②	講義内で適宜指示する
13	教育における子供の認知発達・社会性と情動性の発達【ディスカッション】	講義内で適宜指示する
14	オノマトペの役割【概要】	講義内で適宜指示する
15	オノマトペの役割①	講義内で適宜指示する
16	オノマトペの役割【ディスカッション】	講義内で適宜指示する

テキスト・参考文献・資料など

講義内にて適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。

学びの手立て

履修の心構えとして、以下注意してください。
・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。
・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。

評価

【平常点：30点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度
【課題・発表：70点】

学びの継続

次のステージ・関連科目

英語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性　言語教育学領域において、英語教員に必要とされる第２言語習得・教育に関する専門的知識を習得する専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英語教育学特論Ｉ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月７	2
担当者 李　イニッド	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室を訪問するときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、英語教育学の諸分野に関する基礎知識、理論及び研究方法を学び、研究実践に繋げることを目的とする。

メッセージ

①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。

到達目標

①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。
②学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	Introduction	授業時に指示する。
2	Global Englishes (1): The historical, social and political context	授業時に指示する。
3	Global Englishes (2): Variation	授業時に指示する。
4	Global Englishes (3): Implication and issues	授業時に指示する。
5	Global Englishes (4): Current debates	授業時に指示する。
6	How languages are learned (1): Acquisition vs. learning	授業時に指示する。
7	How languages are learned (2): Input, output & interaction	授業時に指示する。
8	How languages are learned (3): Explicit vs. implicit learning	授業時に指示する。
9	How languages are learned (4): Correction & recasts	授業時に指示する。
10	How languages are learned (5): Individual differences	授業時に指示する。
11	How languages are learned (6): Social approaches	授業時に指示する。
12	Language teaching approaches and methods	授業時に指示する。
13	Language skills	授業時に指示する。
14	The language learner	授業時に指示する。
15	The language teacher	授業時に指示する。
16	Research project	総復習。

テキスト・参考文献・資料など

Celce-Murcia, M. et al. (2013). Teaching English as a Second or Foreign Language (4th edition). Boston: Heinle & Heinle.
Jenkins, J. (2014). Global Englishes: A Resource Book for Students (3rd edition). London: Routledge.
Van Patten, et al. (2020). Key Questions in Second Language Acquistion. Cambridge: Cambridge University Press.

学びの手立て

①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。

評価

授業参加態度(30%)、レポート(40%)及び口頭発表(30%)による総合評価。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「英語教育学特論II」、「言語教育実習Ｉ」、「言語教育特殊研究」

※ポリシーとの関連性　専門性とコミュニケーション能力の育成

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	英語教育学特論Ⅱ	後期	火５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波　聡	１年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

To learn theories and methods of English teaching

メッセージ

【実務経験】中学校教師及び指導主事としての現場経験を活かして、英語教育に関する理論と実践について解説します。

到達目標

(1) To acquire the basic knowledge and skills of English teaching
(2) To improve English proficiency through in- and out-of-class assignments in English

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	Orientation	Reading Assignment
2	Grammar Translation Method	Reading Assignment
3	Direct Method	Reading Assignment
4	Audio-Lingual Method	Reading Assignment
5	Total Physical Respond	Reading Assignment
6	Communicative Language Teaching	Reading Assignment
7	Content-Based Instruction	Review
8	Mid-term Exam	Reading Assignment
9	Task-Based Language Teaching	Reading Assignment
10	The Participatory Approach	Reading Assignment
11	Learning Strategy Training	Reading Assignment
12	Teaching Materials & ICT	Reading Assignment
13	Workshop 1	Reading Assignment
14	Workshop 2	Reading Assignment
15	Textbook Review & Discussion	Review
16	Final Exam	

テキスト・参考文献・資料など

Will be announced in class.

学びの手立て

(1) Text must be read thoroughly before class.
(2) Class will be conducted in English.

評価

Class Participation・・・・・・・・・・・・30%
Tests/Quizzes・・・・・・・・・・・・・・40%
Assignments・・・・・・・・・・・・・・・30%

学びの継続

次のステージ・関連科目

修論テーマの絞り込み

※ポリシーとの関連性　批判的に考える思考力、またそれを理論的に検討・報告するアカデミックスキルの習得を目的とする。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英語論文の書き方Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水４	2
担当者 里　麻奈美	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	開講前はm.satoアットまーくokiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に受け付けます。	

学びの準備

ねらい

この講義は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を意識し、自分の主張を論述する方法の習得を目的とする。受講者の興味にあった英語論文を噛み砕いて読むことによって、要旨・仮説・検証方法の書き方、文献の引用方法など、英語で論文を書くために必要な基礎知識をステップ毎に学ぶ。

メッセージ

受講者の希望に応じ講義内容で扱うテーマを柔軟に変更し、各自が修論に活かせる論文の書き方を指導することを目標とします。

到達目標

この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「課題設定・仮説設定・検証方法」などの知識が得られる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
2	英語論文の書き方概要・英語論文の選択	講義内で適宜指示する
3	英語論文を参照しながら、要旨の書き方①	講義内で適宜指示する
4	英語論文を参照しながら、要旨の書き方②	講義内で適宜指示する
5	英語要旨の執筆・添削①	講義内で適宜指示する
6	英語要旨の執筆・添削②	講義内で適宜指示する
7	論文を参照しながら、研究目的・研究手法の書き方①	講義内で適宜指示する
8	論文を参照しながら、研究目的・研究手法の書き方②	講義内で適宜指示する
9	研究目的の執筆・添削①	講義内で適宜指示する
10	研究目的の執筆・添削②	講義内で適宜指示する
11	先行研究の見つけ方・引用の仕方①	講義内で適宜指示する
12	先行研究の見つけ方・引用の仕方②	講義内で適宜指示する
13	先行研究を引用した文の執筆・添削	講義内で適宜指示する
14	論文を参照しながら、仮説の書き方①	講義内で適宜指示する
15	論文を参照しながら、仮説の書き方②	講義内で適宜指示する
16	仮説の執筆・添削	講義内で適宜指示する

テキスト・参考文献・資料など

受講者の研究テーマ・興味に応じた論文を適宜講義内で配布する。

学びの手立て

履修の心構えとして、以下注意してください。
・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。
・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。

評価

【平常点：30点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度
【課題・発表：70点】

学びの継続

次のステージ・関連科目

①英語学特論
②英語論文の書き方　Ⅱ

※ポリシーとの関連性　批判的に考える思考力、またそれを理論的に検討・報告するアカデミックスキルの習得を目的とする。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英語論文の書き方Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 里　麻奈美	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	開講前はm.satoアットまーくokiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に受け付けます。	

学びの準備

ねらい

「英語論文の書き方I」に続き，英語の論文を書く為に必要な知識を習得する事を目的とする。受講者の興味にあった英語論文を噛み砕いて読むことによって、研究手法・分析方法・結果・考察など、英語で論文を書くために必要な基礎知識をステップ毎に学ぶ。

メッセージ

受講者の希望に応じ講義内で扱うテーマを柔軟に変更し、各自が修論に活かせる論文の書き方を指導することを目標とします。

到達目標

この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「分析方法・結果報告のしかた・結果や考察の書き方」などの知識が得られる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
2	英語論文の書き方概要・英語論文の選択	講義内で適宜指示する
3	英語論文を参照しながら、研究手法の書き方を読み解く①	講義内で適宜指示する
4	英語論文を参照しながら、研究手法の書き方を読み解く②	講義内で適宜指示する
5	研究手法のミニ執筆・添削①	講義内で適宜指示する
6	研究手法のミニ執筆・添削②	講義内で適宜指示する
7	論文を参照しながら、仮説に対する結果の書き方を読み解く①	講義内で適宜指示する
8	論文を参照しながら、仮説に対する結果の書き方を読み解く②	講義内で適宜指示する
9	仮説に対する結果のミニ執筆・添削①	講義内で適宜指示する
10	仮説に対する結果のミニ執筆・添削②	講義内で適宜指示する
11	中間ディスカッション	講義内で適宜指示する
12	論文を参照しながら、考察の書き方を読み解く①	講義内で適宜指示する
13	論文を参照しながら、考察の書き方を読み解く②	講義内で適宜指示する
14	考察のミニ執筆・添削①	講義内で適宜指示する
15	考察のミニ執筆・添削②	講義内で適宜指示する
16	ディスカッション・まとめ	講義内で適宜指示する

テキスト・参考文献・資料など

受講者の研究テーマ・興味に応じた論文を適宜講義内で配布する。

学びの手立て

履修の心構えとして、以下注意してください。
・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。
・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。

評価

【平常点：30点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度
【課題・発表：70点】

学びの継続

次のステージ・関連科目

①英語学特論

※ポリシーとの関連性　英語圏の文学の読解を通して、高度な英文読解力を鍛えると同時に、英語圏の言語文化の奥深さを学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英米演劇特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水４	2
担当者 西原　幹子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	email: mikiko@okiu.ac.jp 研究室：五号館5411	

学びの準備

ねらい

本講では英米の作家によって書かれた劇作品の精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形態の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論Ⅰ」では、W. Shakespeare の Macbeth を読む。

メッセージ

受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。

到達目標

演劇作品の読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、イギリスにおける演劇の歴史的文化的背景について理解を深める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明・オリエンテーション	講義スケジュールの確認
2	演劇というジャンルの特徴について概説	文献収集とその読解
3	作品の精読（1）	講義内容の予習・復習
4	作品の精読（2）	講義内容の予習・復習
5	作品の精読（3）	講義内容の予習・復習
6	作品の精読（4）	講義内容の予習・復習
7	作品の精読（5）	講義内容の予習・復習
8	作品の精読（6）	講義内容の予習・復習
9	作品の精読（7）	講義内容の予習・復習
10	作家や時代背景について（1）	関連資料の収集とその読解
11	作家や時代背景について（2）	関連資料の収集とその読解
12	先行研究論文の読解（1）	関連資料の収集とその読解
13	先行研究論文の読解（2）	関連資料の収集とその読解
14	先行研究論文の読解（3）	関連資料の収集とその読解
15	まとめ	学んだ内容全体の総括
16	レポート提出	レポートの仕上げ

テキスト・参考文献・資料など

The Riverside Shakespeare, ed. by G. Blakemore Evans (Houghton Mifflin, 1997), その他、初回の講義にて通知する。

学びの手立て

英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること

評価

授業への貢献度(40%) と、学期末レポート (60%) によって評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米演劇特論Ⅱ

※ポリシーとの関連性　英語圏の文学の読解を通して、高度な英文読解力を鍛えると同時に、英語圏の言語文化の奥深さを学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英米演劇特論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月３	2
担当者 西原　幹子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	email: mikiko@okiu.ac.jp 研究室：五号館5411	

学びの準備

ねらい

本講では英米の作家によって書かれた劇テクストの精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形態の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論Ⅱ」では、W. Shakespeare のAs You Like Itを読む。

メッセージ

受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。

到達目標

演劇テクストの読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、イギリスにおける演劇の歴史的文化的背景について理解を深める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明・オリエンテーション	講義スケジュールの確認
2	作品①について概説	配布資料の理解
3	作品①の精読（1）	文献の読解
4	作品①の精読（2）	文献の読解
5	作品①の精読（3）	文献の読解
6	作品①の精読（4）	文献の読解
7	作品①の精読（5）	文献の読解
8	先行研究論文の読解	先行研究の整理
9	作品②について概説	配布資料の理解
10	作品②の精読（1）	文献の読解
11	作品②の精読（2）	文献の読解
12	作品②の精読（3）	文献の読解
13	作品②の精読（4）	文献の読解
14	作品②の精読（5）	文献の読解
15	先行研究論文の読解	先行研究の整理
16	レポート提出	まとめ

テキスト・参考文献・資料など

初回の講義で通知する

学びの手立て

英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること

評価

授業への貢献度(40%）と、学期末レポート（60%）によって評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米文学や文化に関する科目

※ポリシーとの関連性　英語圏の文学の読解を通して、高度な英文読解力を鍛えると同時に、英語圏の言語文化の奥深さを学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英米詩特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	土３	2
担当者 西原　幹子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	email: mikiko@okiu.ac.jp 研究室：五号館5411	

学びの準備

ねらい

本講では英米詩の精読を通して、押韻や比喩の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論Ⅰ」ではイギリス・ルネッサンス期の詩を読む。

メッセージ

受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。

到達目標

英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喩表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明・オリエンテーション	資料の読解
2	詩のコンベンション（約束事）について概説	資料の読解
3	Edmund Spenser 精読 (1)	テキストの読解
4	Edmund Spenser 精読 (2)	テキストの読解
5	Edmund Spenser 精読 (3)	テキストの読解
6	Edmund Spenser 精読 (4)	テキストの読解
7	W.Shakespeare 精読 (1)	テキストの読解
8	W.Shakespeare 精読 (2)	テキストの読解
9	W.Shakespeare 精読 (3)	テキストの読解
10	W.Shakespeare 精読 (4)	テキストの読解
11	John Donne 精読 (1)	テキストの読解
12	John Donne 精読 (2)	テキストの読解
13	John Donne 精読 (3)	テキストの読解
14	John Donne 精読 (4)	テキストの読解
15	先行研究論文の読解	参考文献の収集と読解
16	レポート提出	講義内容についての考察とまとめ

テキスト・参考文献・資料など

Penguin Book of Renaissance Verse, ed. by David Norbrook (Penguin Classics, 1993)

学びの手立て

辞書を引くときは英和だけでなく英英辞典、類語辞典なども同時に引くように心がけること。また、原文を精読したうえで自分なりの日本語に訳出してみると、理解がより深まる。

評価

授業への貢献度(40%）と、学期末レポート（60%）により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米詩特論Ⅱ

※ポリシーとの関連性　英語圏の文学の読解を通して、高度な英文読解力を鍛えると同時に、英語圏の言語文化の奥深さを学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英米詩特論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金５	2
担当者 西原　幹子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	email:mikiko@okiu.ac.jp 研究室：五号館5411	

学びの準備

ねらい

本講では英米詩の精読を通して、押韻や比喩の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論Ⅱ」ではShakespeare の Venus and Adonis を取り上げる。

メッセージ

受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。

到達目標

英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喩表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明・オリエンテーション	講義スケジュールの確認
2	詩のコンベンション（約束事）について概説	配布資料の理解
3	詩の精読（1）	作品の精読
4	詩の精読（2）	作品の精読
5	詩の精読（3）	作品の精読
6	詩の精読（4）	作品の精読
7	詩の精読（5）	作品の精読
8	詩の精読（6）	作品の精読
9	詩の精読（7）	作品の精読
10	作家とその時代について（1）	関連資料の収集とその読解
11	作家とその時代について（2）	関連資料の収集とその読解
12	先行研究の読解（1）	関連資料の収集とその読解
13	先行研究の読解（2）	関連資料の収集とその読解
14	先行研究の読解（3）	関連資料の収集とその読解
15	まとめ	学んだ内容の総括
16	レポート提出	扱った作家・作品について考察

テキスト・参考文献・資料など

初回の講義で通知する。

学びの手立て

辞書を引くときは英和だけでなく英英辞典、類語辞典なども同時に引くように心がけること。また、原文を精読したうえで自分なりの日本語に訳出してみると、理解がより深まる。

評価

授業への貢献度(40%）と、学期末レポート（60%）により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米詩特論Ⅰ

※ポリシーとの関連性　作品について話し合うことによって、文学と英米文化の理解を深める。

[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	英米小説特論Ｉ	前期	火７	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜　霞	１年	研究室：9-501　電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この授業では、学生が様々な短編小説を読み、それぞれの作品について話し合うことによって、文学と英米文化の理解を深める。一つの作品について、３ページぐらいの作文を書く。授業は100％英語で行われるが、予習として、日本語訳を参照しても構わない。

メッセージ

This class will be conducted entirely in English! Reading and discussing literature is one of the best ways to improve your English. Let's have fun discussing various short stories and novels. The difficulty of the class will be adjusted to match student ability.

到達目標

学生は文学の要素（プロット、登場人物、語り方、象徴、テーマなど）と文学作品において使用されている様々な英語表現を理解し、文学作品について理解度を深める。最終目標として、作品分析及び論文の正しい書き方を学びつつ、しっかりとした構成を持つ作文が書けることを目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	クラスの紹介	Bring syllabus to class
2	文学とは何か？　文学の要素について	Read handout on literature
3	ラングストン・ヒューズの「Thank You, Ma' am」について　テストと話し合い	Read story and prepare for test
4	「Thank You, Ma' am」について　登場人物とテーマを中心に	Prepare answers to questions
5	リチャード・ライトの『Black Boy』からの抜粋　テストと話し合い	Read story and prepare for test
6	リチャード・ライトの『Black Boy』からの抜粋について　テーマを中心に	Write short paper
7	ジェイムズ・ジョイスの紹介	Read handout / Revise paper
8	ジェイムズ・ジョイスの「Eveline」について　テストと話し合い	Read story and prepare for test
9	ジェイムズ・ジョイスの「Eveline」について　象徴と文体を中心に	Prepare answers to questions
10	ジェイムズ・ジョイスの「Counterparts」について　テストと話し合い	Read story and prepare for test
11	ジェイムズ・ジョイスの「Counterparts」について　語り方と視点とテーマを中心に	Prepare answers to questions
12	論文の正しい書き方について	Read handout
13	締め切り：作文の下書き　学生の作文について個人的な指導	Write first draft of paper
14	学生の作文について個人的な指導	Revise paper
15	締め切り：作文	Submit final draft
16	まとめ	Review class

テキスト・参考文献・資料など

We will be reading short stories by Langston Hughes, Richard Wright, James Joyce, and others.
Copies of stories will be provided. Students are free to consult Japanese translations of the texts outside of class, but the class discussions will be conducted in English.
参考書・参考資料等
「ダブリン市民」ジェイムズ・ジョイス、安藤一郎訳

学びの手立て

We will read and discuss stories together. Students should develop their own ideas and interpretations of the stories, and write essays on two of the works we discuss.

評価

学生に対する評価
総合評点の構成は以下の通りとする。
（１）テスト　　３０％
（２）作文１　　３０％
（３）作文２　　４０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米小説特論 II

※ポリシーとの関連性　文学と英米文化の理解を深める。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	英米小説特論Ⅱ	後期	火７	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜　霞	１年	研究室：9-501　電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この授業では、学生がJane EyreやThe Scarlett Letterという長編小説を読み、その作品について話し合うことによって、文学と英米文化の理解を深める。作品について、短い論文を書く。授業は100%英語で行われるが、予習として、日本語訳を参照しても構わない。

メッセージ

This class will be conducted entirely in English! Reading and discussing literature is one of the best ways to improve your English. Let's have fun discussing novels in English. The difficulty of the class will be adjusted to match student ability.

到達目標

学生は文学の要素（プロット、登場人物、語り方、象徴、テーマなど）と文学作品において使用されている様々な英語表現を理解し、文学作品について理解度を深める。最終目標として、作品分析及び論文の正しい書き方を学びつつ、しっかりとした構成を持つ作文が書けることを目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業の紹介	Bring syllabus to class
2	文学の要素について（英米小説特論Iの内容を復習）	Read handout on literature
3	シャーロット・ブロンテの紹介	Read handout
4	Parts 1 and 2 について　テストと話し合い	Read text / prepare for test
5	Parts 1 and 2 について話し合い　登場人物と語り方を中心に	Prepare for discussion
6	Parts 3 and 4　テストと話し合い	Read text / prepare for test
7	Parts 3 and 4 について話し合い　象徴と文体を中心に	Prepare for discussion
8	Part 5　テストと話し合いPart 5　について　テームを中心に	Read text / prepare for test
9	原作の抜粋を読んでみる	Read excerpt / write first draft
10	ナサニエル・ホーソーンの紹介	Read handout / revise paper
11	『Scarlett Letter』前半について	Read text / prepare for test
12	『Scarlett Letter』後半について　論文の正しい書き方について	Read text / write outline
13	締め切り：作文の下書き　学生の作文について個人的な指導	Write first draft of paper
14	学生の作文について個人的な指導	Revise paper
15	締め切り：作文	Submit final paper
16	まとめ	Review semester's work

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：
1. Jane Eyre: Level 6. Oxford Bookworms.
2. The Scarlett Letter. Level 4. Oxford Booksworms.

参考書・参考資料等：
1.『ジェイン・エア』」シャーロット・ブロンテ、河島 弘美訳
2.　『緋文字』　ナサニエル・ホーソーン著、鈴木重吉訳

学びの手立て

We will read and discuss a novel or two. Student requests will also be considered.

評価

学生に対する評価
総合評点の構成は以下の通りとする。
（１）テスト　　３０％
（２）論文１　　３０％
（３）論文２　　４０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

英米小説特論I

※ポリシーとの関連性　文学と英米文化の理解を深める。

[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	英米文化特論	後期	月６	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜　霞	１年	研究室：9-501　電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

In this class, students will learn about various aspects of British and American culture, including literature, religion, language, values, history, norms, rituals, and music.

メッセージ

This class will be conducted entirely in English, so students should be prepared to speak meaningfully and intelligently on each week's topic. In addition, students are expected to take the initiative in doing research.

到達目標

Students will be able to speak and write intelligently on various aspects of British and American culture.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	Introduction to class and methods	Read syllabus
2	What is culture? Discussion of definitions and terms.	Read handout on culture
3	History and Culture (Research and Discussion, Part I)	Read handout on culture
4	History and Culture (Research and Discussion, Part II)	Research Western history
5	Religion and Culture (Research and Discussion, Part I)	Read handout on religion
6	Religion and Culture (Research and Discussion, Part II)	Research on Christianity
7	Language and Culture (Research and Discussion, Part I)	Read handout on language
8	Language and Culture (Research and Discussion, Part II)	Research language
9	MID-TERM EXAM	★Prepare for mid-term exam
10	Literature and Culture (Research and Discussion, Part I)	Read handout on literature
11	Literature and Culture (Research and Discussion, Part II)	Research literature
12	Media, Movies, and Culture (Research and Discussion, Part I)	Read handout on media and movies
13	Media, Movies, and Culture (Research and Discussion, Part II)	★First draft of paper due
14	Norms, Beliefs, and Culture (Research and Discussion, Part I)	Read handout on norms
15	Norms, Beliefs, and Culture (Research and Discussion, Part II)	Revise paper
16	Review of course, focussing on final papers.	★Final draft of paper due

テキスト・参考文献・資料など

There is no textbook, but handouts will be provided, and students are expected to do research on the various topics.

学びの手立て

Students will read handouts and do research on the various topics.
Topics will be discussed in English during class.
Students will take a mid-term exam and write a 5-page paper on a topic of their choice.

評価

Class Participation-- 25%
Mid-Term Exam -- 35%
Final Paper -- 40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

別になし

※ポリシーとの関連性　異文化理解、多文化共生、グローバル化などといった専攻ポリシーへのベクトルを「カリブ文学」を通して多角的に養います。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 英米文学特論	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 -山本　伸	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	1年	yamamoto-s@tokaigakuen-u.ac.jp	

学びの準備

ねらい

ブルガリアの記号学者のツヴェタン・トドロフは、16世紀のアステカ文明征服の代償としてスペイン（ヨーロッパ）人が失った「ある種のコミュニケーション」が近代社会を構築する上で深刻な失点だったと述べています。トドロフのいう「ある種のコミュニケーション」とは一体なにか。それが持つ重要な意味とは何か。カリブと沖縄の歴史や文化、社会を通して考えていきます。

メッセージ

「木を見て森を見ず」にはならないように、現代世界全体における日本、そして沖縄を考えるためのあくまでひとつの素材としてカリブ文学を利用します。カリブ文学を理解することによって沖縄を理解し、現代世界を理解するのが目的ですので、受講者の沖縄の視点は極めて重要です。毎回、沖縄を常に意識しながら講義を進めていきたいと思います。

到達目標

本専攻のポリシーの三本柱は、１．実社会で通用する高度な英語力および日本語力を有し、自らの考えを発信する能力、２．異文化理解に基づく多文化共生を可能とし、グローバル化する国際社会に対応できる能力、３．他領域を横断した知識を備え、自らの専門分野で修得した学問や技術を社会に還元できる応用力であるので、まずは(1) 自分の考えを十分に発信できたかどうか、次に(2)カリブという異文化を十分に理解できたかどうか、さらには(3)それらの発信力と理解を沖縄というローカリティおよび自己にいかに還元して行けるのか（可能性の探究）、を明確に確認する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス／授業説明／その他	
2	カリブ海地域の歴史、社会、文化の概説①	
3	カリブ海地域の歴史、社会、文化の概説②	トドロフ理論を知る
4	トドロフ理論考察／カリブ文学におけるトドロフ理論的側面①	
5	トドロフ理論考察／カリブ文学におけるトドロフ理論的側面②	多層的コミュニケーションについて
6	コミュニケーションの多層性について／熊野の山里／牛井の「吉野家」①	
7	コミュニケーションの多層性について／熊野の山里／牛井の「吉野家」②	ダンティカを原書で読む①
8	ダンティカ原書講読①-1	
9	ダンティカ原書講読①-2	ダンティカを原書で読む②
10	ダンティカ原書講読②-1	
11	ダンティカ原書講読②-2	ダンティカを原書で読む③
12	ダンティカ原書講読③	
13	ダンティカ原書購読の講評／まとめ	講義関連の自己テーマの発表準備
14	課題の発表 ＆ ディスカッション「見えないコミュニケーションの意味」①	
15	課題の発表 ＆ ディスカッション「見えないコミュニケーションの意味」②	
16	まとめ ＆ 試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：山本伸著『カリブ文学研究入門』（世界思想社）／配布プリント

学びの手立て

原書購読とありますが、ダンティカの英語はとても平易ですので心配はいりません。さらに、翻訳も併用しますので理解は深まるはずです。ポイントは、カリブ海という異文化における「多層的なコミュニケーション（＝神や死者との対話、死生観、人間とは？ 生きるとは？）」を分析、理解しながら、沖縄に生きる今のこの自分というものを探求することです。授業では深みのある議論をおこなえればと思っていますので、積極的に発言できるようにご準備願います。

評価

授業中の発言の積極性25%、自己テーマ発表25%、試験50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

修士論文に向けての総論的視点（より広い視野での現代世界観、他者との関連性を通しての自己、現代社会と沖縄、文化と社会、等々）を意識した研究姿勢へとつなげてほしいと思います。

※ポリシーとの関連性　専門性とコミュニケーション能力の育成

［　　／実験実習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育実習Ⅰ	後期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波　聡	１年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

To improve teaching skills.

メッセージ

【実務経験】中学校教師及び指導主事としての現場経験を活かして、英語教育に関する理論と実践について解説します。

到達目標

(1) To acquire basic knowledge of second language acquisition and English teaching.
(2) To acquire basic teaching skills through class observations and teaching practice.
(3) To improve English proficiency through reading assignments and class discussions.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	Orientation	Reading Assignment
2	Textbook reading & Discussion	Reading Assignment
3	Textbook reading & Discussion	Reading Assignment
4	Textbook reading & Discussion	Reading Assignment
5	Textbook reading & Discussion	Reading Assignment
6	Textbook reading & Discussion	Reading Assignment
7	Textbook reading & Discussion	Review
8	Review & Quiz	Reading Assignment
9	Class observation & discussion	Class Observation Analysis
10	Class observation & discussion	Class Observation Analysis
11	Class observation & discussion	Class Observation Analysis
12	Class observation & discussion	Class Observation Analysis
13	Workshop	Lesson Plan 1
14	Teaching Practicum 1	Lesson Plan 2
15	Teaching Practicum 2	Teaching Report
16	Reflection	

テキスト・参考文献・資料など

Will be announced in class.

学びの手立て

Students must read assigned chapters before class.

評価

Class participation・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30%
Quizzes・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30%
Assignments・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

修論テーマの絞り込み

※ポリシーとの関連性　日本語教育の専門家として多文化共生社会への貢献ができる人材となる。グローバル化する国際社会に対応できる能力を育てる。　[　　／実験実習]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
言語教育実習Ⅱ	後期	月４	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
尚　真貴子	１年	syo@okiu.ac.jp 尚の研究室【5410】098-893-0785	

学びの準備

ねらい

学習者を知り、日本語のレベル別の指導法や教材等を熟知し、指導に繋げていく。そして、模擬授業を経て教壇実習となるが、実習は本学の日本語クラスか、海外の協定校において３週間行うことになる。県内の日本語学校においても実習の可能性を探る。

メッセージ

言語教育実習が、修士論文と繋がるような取り組みができることを期待したい。

到達目標

学習者をよく知り、日本語教材を分析研究し、効果的な授業の実施のための指導案の作成ができるようになる。そして、多様な日本語クラスの現場で実習を経験し、将来は、日本国内外で日本語教育及び多文化共生社会に貢献できる人材として活躍できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（登録の確認、クラスの概要の説明、実習計画について等 ）	教材研究１
2	年少者のための日本語教育・生活者のための日本語教育	教材研究２
3	教材研究及び評価法について	教材研究３
4	初級クラスの指導法及び指導案作成	教科書分析１
5	中・上級クラス（文法）の指導法及び指導案作成	教科書分析２
6	中・上級クラス（読解）の指導法及び指導案作成	教科書分析３
7	中・上級クラス（作文）の指導法及び指導案作成	初級レベルの指導案作成
8	中・上級クラス（聴解・会話）の指導法及び指導案作成	中級レベルの指導案作成
9	中・上級クラス（日本/沖縄事情）の指導法及び指導案作成	上級レベルの指導案作成
10	初級クラスの模擬授業	教壇実習のための指導案作成１
11	中級クラスの模擬授業	教壇実習のための指導案作成２
12	上級クラスの模擬授業	教壇実習のための指導案作成３
13	教壇実習（初級レベル）	教壇実習のための指導案作成４
14	教壇実習（中級レベル）	教壇実習のための指導案作成５
15	教壇実習（上級レベル）	報告書作成１
16	まとめ・振り返り	報告書作成２

テキスト・参考文献・資料など

授業開始時に指示する。
・土屋千尋著（2005）『つたえあう日本語教育実習 外国人集住地域でのこころみ』明石書店
・畑佐由紀子編（2008）『外国語としての日本語教育－多角的視野に基づく試み－』くろしお出版
・太田陽子他（2019）『超基礎・日本語教育』くろしお出版
・近藤安月子・丸山千歌（2021）『日本語教育実践入門－日本語の分析から教材・授業の創造まで－』東京大学出版会

学びの手立て

事前に日本語教育の教材を広く熟知すること。そして、教壇実習の前に、本学で開講されている初・中・上級クラスの授業観察を行ったり、可能な範囲で学外の日本語教育機関も訪問し、現場からも学ぶこと。

評価

出席率、授業への貢献度（10%）、課題への取り組み（10%）、模擬授業（20%）、教壇実習（60%）等から総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

実習の経験を修士論文に活かしていくことが望ましい。また、県内の小中学校の外国人の児童生徒のための日本語教室や日本語学校等の多様な現場を経験することで、次のステージに大きく繋がっていくことであろう。

※ポリシーとの関連性　言語教育学領域の必修科目として、第２言語習得に関する専門的知識と研究方法を習得し、取り込むべき課題への理解を深める。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育特殊研究ＩＡ	通年	月６	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李　イニッド	１年	研究室を訪問とき、必ず事前に予約すること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

第二言語の習得と教育に関する研究を概観しながら、この分野の基礎的知識と研究方法を身につけることを目的とする。

メッセージ

文献の精読や発表、ディスカッションなどを通して第二言語の習得と教育への理解を深めていく。開講言語：英語・日本語。

到達目標

前期では、この分野について自立して研究を行うための必要な知識とスキルを習得する。後期では、まず、履修者各自が研究したいテーマを決定し、リサーチクエスチョンと仮説を立てる。次に、文献を収集し、調査方法を考える。最後に、効率的に調査を実施するための具体的な研究計画書を作成する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する
2	第二言語習得とは	各回の授業ごとに指示する
3	言語習得に関する俗説	各回の授業ごとに指示する
4	母語習得	各回の授業ごとに指示する
5	幼児期のバイリンガリズム	各回の授業ごとに指示する
6	第二言語の学習環境	各回の授業ごとに指示する
7	対照分析・エラー分析	各回の授業ごとに指示する
8	中間言語	各回の授業ごとに指示する
9	言語転移	各回の授業ごとに指示する
10	第二言語学習者の個人差	各回の授業ごとに指示する
11	行動主義的・生得的言語習得観	各回の授業ごとに指示する
12	認知心理的・社会文化的アプローチ	各回の授業ごとに指示する
13	第二言語の学習と教育	各回の授業ごとに指示する
14	観察研究	各回の授業ごとに指示する
15	教授方法の提案	各回の授業ごとに指示する
16	前期のまとめ	各回の授業ごとに指示する
17	学術論文作成の基本	各回の授業ごとに指示する
18	研究テーマの設定	各回の授業ごとに指示する
19	先行研究の調べ方と検討方法	各回の授業ごとに指示する
20	リサーチ・クエッションと仮説の立て方	各回の授業ごとに指示する
21	アウトラインの作成	各回の授業ごとに指示する
22	先行研究の文献レビュー：文献探索と選択	各回の授業ごとに指示する
23	先行研究の文献レビュー：文献の読み込み	各回の授業ごとに指示する
24	先行研究の文献レビュー：先行研究の批判	各回の授業ごとに指示する
25	自分の研究課題の位置づけ	各回の授業ごとに指示する
26	研究方法の検討	各回の授業ごとに指示する
27	調査実施と手順	各回の授業ごとに指示する
28	研究倫理	各回の授業ごとに指示する
29	研究計画の立案	各回の授業ごとに指示する
30	研究計画の作成	各回の授業ごとに指示する
31	後期のまとめ・経過報告と今後の予定	各回の授業ごとに指示する

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料（英語・日本語）
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。
	評価 授業参加態度（30%）、口頭発表(30%)、レポート(40%)による総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「言語教育特殊研究ⅡA」

※ポリシーとの関連性　言語や思考のメカニズムに関する専門知識や研究技術だけでなく、論理的に説明する言語能力や独創性を有する人材の育成を目指す。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育特殊研究ＩＢ	通年	月５	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里　麻奈美	１年	【開講前】m.satoアットマークokiu.ac.jp【開講後】講義終了後教室で	

学びの準備

ねらい

ことばや思考に影響する文化・非言語情報（身体運動・動機づけ）・子供の認知，社会性の発達に関する研究を概観し、母語や英語がどのように学習されるのか、心理言語学・認知言語学の観点から知見を深めることを目的とする。

メッセージ

ことばの理解・産出に無意識的に影響する情報とは何か、英語学習に有効な手法とは何かについて、自由な発想を持ちながら、心理・認知言語学の観点から一緒に考えてみましょう。

到達目標

・前期では心理・認知言語学の分野を概観し、各自が面白いと思えるテーマを絞り込む。
・後期では、具体的なテーマ・研究目的を設定し、最適な研究手法について学ぶ。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	適宜周知
2	言語に反映される考え方：英語の恋愛表現を例に①	適宜周知
3	言語に反映される考え方：英語の恋愛表現を例に②	適宜周知
4	身体化された認知とは：体の動きが言語学習に影響する例①	適宜周知
5	身体化された認知とは：体の動きが言語学習に影響する例②	適宜周知
6	感情認知における文化差①	適宜周知
7	感情認知における文化差②	適宜周知
8	中間まとめ	適宜周知
9	英語学習における「動機づけ」の役割①	適宜周知
10	英語学習における「動機づけ」の役割②	適宜周知
11	言語における「共感」の役割①	適宜周知
12	言語における「共感」の役割②	適宜周知
13	子供の発達心理学①：子供の認知・自己・感情・言語・社会性・人間関係の発達について	適宜周知
14	子供の発達心理②：子供の認知・自己・感情・言語・社会性・人間関係の発達について	適宜周知
15	各自興味のあるテーマについてディスカッション	適宜周知
16	前期の総まとめ	適宜周知
17	修士論文の書き方①	適宜周知
18	修士論文の書き方②	適宜周知
19	研究テーマの設定①	適宜周知
20	研究テーマの設定②	適宜周知
21	研究目的・仮説の設定①	適宜周知
22	研究目的・仮説の設定②	適宜周知
23	研究手法の決定①	適宜周知
24	研究手法の決定②	適宜周知
25	実験材料の検討・作成①	適宜周知
26	実験材料の検討・作成②	適宜周知
27	実験材料の検討・作成③	適宜周知
28	実験の作成①	適宜周知
29	実験の作成②	適宜周知
30	実験の作成③	適宜周知
31	後期のまとめ・今後の予定	適宜周知

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 現在の業界で注目されている文献を適宜講義内で配布します。
	学びの手立て 修士論文の完成には、自分の知的好奇心と向き合い、高い研究意欲を持ちながら独自性のある研究を遂行することが求められます。常に楽しむことを忘れずに、緻密さと大胆な発想力を持って研究に取り組んで下さい。
	評価 【平常点】50点　参加度の積極性・ディスカッション・発表などを総合的に評価 【課題】　50点　レジュメなどの資料の提出

学びの継続	次のステージ・関連科目 言語教育特殊研究ⅡＢ

※ポリシーとの関連性　学術的な側面からの支援を通して、社会のニーズに答える専門的技術を身につけた人材育成を目指す。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育特殊研究ＩＣ	通年	月３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李　ヒョンジョン	１年	講義前後で受け付ける。	

学びの準備

ねらい

この特殊研究は、修士論文にかかわる研究と執筆の出発段階として位置づけ、研究計画書に基づいて、研究テーマ、目的、意義等を絞っていく。また、研究テーマと関連する先行研究を踏まえながら、主な研究手法を具体的に組み立て、予備調査の実施および今後の計画案の詳細について考えていく。

メッセージ

まずは、日本語教育分野の先行研究について、特に自分の研究テーマに関連する先行研究について見識を深めていくことが必須です。その際は、批判的な視点で先行研究を読み取ること、そこから問題点や解決すべき課題を見つけることが重要です。2年の研究期間はとても短いものであることを念頭に置き、研究方法における緻密な計画と遂行に心がけましょう。

到達目標

・日本語教育分野の文献及び先行研究の論文を批判的に読み取り、問題点を絞ることができる。
・先行研究を踏まえて、自分の研究テーマと内容を再検討したうえで、具体的な研究計画と遂行方法を絞ることができる。
・研究の遂行において予備調査が必要であると判断した場合は、調査の実施と検証を進め、今後の本調査における改善点を探ることができる。
・本調査等の計画と実施について具体的な内容と遂行スケジュールを立てることができる。
・早めの調査計画および実施を通して、研究内容について十分な点検と検証を行うことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：特殊講義の目的および今学期の流れについて確認	研究計画の作成と報告
2	研究計画書の確認（研究テーマ、研究目的、研究結果の意義）	研究計画の作成と報告
3	日本語教育研究のこれまでの流れと最近の動向について	テーマに沿った研究動向の確認
4	研究テーマに関連する文献リスト	テーマに沿った研究動向の確認
5	先行研究の報告と考察①	文献購読・報告
6	先行研究の報告と考察②	文献購読・報告
7	先行研究の報告と考察③	先行研究のまとめ
8	先行研究の報告と考察④	文献購読・報告
9	研究計画書の見直し①	先行研究のまとめ
10	研究計画書の見直し②	研究計画の再確認
11	予備調査の実施と分析①	予備調査の準備
12	予備調査の実施と分析②	予備調査の実施
13	予備調査結果とまとめ	予備調査結果の分析
14	夏季休暇中の研究調査の計画①	本調査に向けた計画
15	夏季休暇中の研究調査の計画②	本調査に向けた計画
16	夏季休暇中の進行状況の報告	前期のまとめ
17	後期の流れの確認と研究計画の報告	現時点における状況報告
18	具体的な研究計画と手法	後期の研究計画の確認
19	本調査の準備①	本調査の概要設定
20	本調査の準備②	本調査の内容設定
21	本調査の実施①	本調査の最終準備
22	本調査の実施②	本調査の実施
23	本調査の実施③	実施結果のまとめ
24	調査結果の分析と考察①	分析方法の設定
25	調査結果の分析と考察①	調査結果の分析と報告
26	調査結果の分析と考察①	調査結果の分析と報告
27	調査結果のまとめ①	分析結果の考察報告
28	調査結果のまとめ②	分析結果の考察報告
29	研究の途中点検	本調査のまとめ
30	修士論文の具体的な執筆に向けて	論文執筆の計画
31	今年度のまとめ、及び、春季休暇中の研究遂行の計画について報告	今年度のまとめ

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは講義内で案内します。他に、正しい研究遂行のために次の文献をお勧めします。 ・高橋順一、渡辺文夫、大渕憲一 編（1998）『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版 ・佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法』新曜社 ・末田清子、抱井尚子、田崎勝也、猿橋順子 編（2011）『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版 ・細川英雄（2012）『研究活動デザイン-出会いと対話は何を変えるか-』東京図書
	学びの手立て 修士論文の完成までは、①問題意識と関連の先行研究の分析、②社会貢献につながる研究テーマの設定と研究計画、③緻密な研究調査の遂行と分析、④研究調査の結果まとめ、⑤論文執筆と公表、という段階が必要で、これらを2年間で達成することはかなりの難関とも言えます。早めの先行研究の分析を通して、次の研究計画、研究調査等にスムーズにつなげていけるよう頑張ってください。
	評価 ＜平常点40点＞ 特殊研究内での討議および発表などを評価。 ＜研究調査と論文作成60点＞ 論文研究計画段階から研究調査実施までの一連の流れにおける報告内容と研究に対する姿勢、実際の論文作成状況等を総合的に判断。

学びの継続	次のステージ・関連科目 今年度の研究活動の進捗状況をまとめて中間諮問に備える。後は、研究調査の結果について深い分析視点での考察･まとめを通して、修士論文執筆の完了を目指す。

※ポリシーとの関連性　社会のニーズや進展に必要な専門的技術を確実に身に付け、将来は専門家として地域社会・国際社会に貢献できる人材育成を目指す。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育特殊研究ＩＤ	通年	月５	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚　真貴子	１年	syo@okiu.ac.jp 尚の研究室【5410】098-893-0785	

学びの準備

ねらい

研究計画に基づき、研究テーマ、目的、意義等を絞り込み、日本語教育分野の先行研究を読み込んでいく。研究を進めて行く上で必要となる一連の手法を習得し、具体的に組み立て、予備調査の実施および今後の計画案の詳細について考えていく。

メッセージ

日本語教育分野の先行研究について、その中でも特に自分の研究テーマに沿った先行研究の多くを学んでください。その際には、批判的に読み、問題点や課題も読み取っていってください。2年の修士論文に関わる研究および執筆は、大変短いものであることを常に意識し、研究方法における綿密な計画と遂行を心がけましょう。

到達目標

・日本語教育分野の文献および先行研究をリストアップし、その内容・意義・課題をまとめ整理する。
・先行研究を踏まえ、自分の研究テーマと内容を再検討したうえで、具体的な研究計画と遂行方法を探る。
・研究の遂行において予備調査が必要な場合は、調査の実施と検証を進め、今後の本調査における改善点を探る。
・本調査の計画と実施について、具体的な内容と遂行スケジュールを立てる。
・研究や調査の実現性を確認し、独自性や有益性の検証を行っていく。
・早めの調査研究計画および実施を通し、研究内容について十分に確認する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（講義の目的および今学期の進め方の確認他）	研究計画書の作成
2	研究計画の確認（研究テーマ、研究目的、研究結果の意義）	研究計画書の作成
3	研究計画の作成	研究計画書の作成
4	日本語教育研究について	研究計画書の作成
5	テーマに沿った著作、論文、報告書等の参考文献リストの作成	参考文献リストの作成
6	先行研究の読み込み（報告と考察）①	参考文献リストの作成
7	先行研究の読み込み（報告と考察）②	参考文献リストの作成
8	先行研究の読み込み（報告と考察）③	参考文献リストの作成
9	先行研究の読み込み（報告と考察）④	参考文献リストの作成
10	研究計画の見直し①（テーマの再確認、作業計画および修論概要の作成）	研究計画書の仕上げ
11	研究計画の見直し②（構成の確認、論旨の一貫性、論文の独創性について考察）	研究計画書の仕上げ
12	研究手法の検討、必要とされるステップの把握と確認	研究計画書の仕上げ
13	予備調査の実施と分析①	予備調査の準備
14	予備調査の実施と分析②	予備調査の準備
15	予備調査結果とまとめ	予備調査のまとめ
16	夏季休暇中の研究調査の計画	予備調査のまとめ
17	後期の流れの確認と研究計画の報告	前期のまとめ
18	夏期休暇中の進捗状況の報告	本調査の準備
19	具体的な研究計画と手法	本調査の準備
20	本調査の準備①	本調査の準備
21	本調査の準備②	本調査の準備
22	本調査の実施①	調査結果の予測
23	本調査の実施②	調査結果の予測
24	本調査の実施③	調査結果の分析
25	調査結果の分析と考察①	調査結果の分析
26	調査結果の分析と考察②	調査結果の分析
27	調査結果のまとめ①	調査結果のまとめ
28	調査結果のまとめ②	調査結果のまとめ
29	研究の再確認	後期のまとめ
30	修士論文の具体的な執筆に向けての確認	後期のまとめ
31	修士1年のまとめ、および春季休暇中の研究遂行の計画の報告	総まとめ

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストや参考文献、関連資料等は、講義内で案内、または適宜配布します。基本的には、各自で参考文献や論文を探し、議論の場に提供することを心がけてください。
	学びの手立て ①研究テーマに沿った専門書や先行研究を多く読み、問題意識をもつこと　②独創性、論理的一貫性をもった研究テーマの設定と研究計画をすること　③綿密な研究調査を心がけること　④専門教員の指導や同志との意見交換や議論を行い、複眼的な視点を養うこと
	評価 出席状況、論文の読み込み(10%)、課題への取り組み(10%)、発表(20%)、論文研究計画段階から研究調査実施までの一連の流れにおける発表や報告(60%)等、総合的に評価を行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「日本語教育学特論Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ」「社会言語学特論」「日本語学特論」「言語教育実習Ⅱ」等を履修し、専門分野における課題や問題意識を養うと同時に、多様な研究手法を身に付け、専門家として次の段階へと進んでいってほしい。今年度の研究活動の進捗状況をまとめ中間発表に備える。

※ポリシーとの関連性　学術的な側面からの支援を通して、社会のニーズに応える専門的技術を身につけた人材育成を目指す。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育特殊研究ⅡC	通年	月３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李　ヒョンジョン	２年	講義前後で受け付ける。	

学びの準備

ねらい

この特殊研究は、修士論文にかかわる研究の遂行および執筆段階と位置づけ、初年度の研究計画に基づいて行った予備調査および本調査を踏まえながら、より実証性のある分析手法で研究内容を考察しながら、修士論文としてまとめていくことをねらいとします。

メッセージ

修士論文の執筆に向けて、収集した調査データを実証的に分析･考察していく段階は、一連の研究の流れの中で最も重要でありながらも、行き詰まりを感じやすい段階でもあります。ぜひ、論文作成のために分析するという姿勢ではなく、自ら明らかにしたかった問いへの答えを探る楽しい段階であることを常に意識しつつ、丁寧にデータを分析･考察する姿勢で取り組んでいきましょう。

到達目標

・研究調査として収集したデータを実証性ある方法を用いて分析することができる。
・分析結果をまとめながら、独自性･倫理性などにおける問題チェックを行うことができる。
・中間発表に向けて得られた研究成果をまとめることができる。
・中間発表で得た質問･コメント等を参考に論文内容を再検討することができる。
・論文内容の一貫性と学術性に検証を重ねながら、修士論文を完成させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	春期休暇中の研究遂行状況の確認	現段階の状況報告の準備
2	前年度の研究成果の振り返りと今年度の研究計画を再確認	研究計画シート作成
3	論文の全体構成①　問題の所在と研究背景	論文の構成をまとめる
4	論文の全体構成②　先行研究との関連および独自性	論文の構成をまとめる
5	論文の全体構成③　研究の具体的な方法と結果	論文の構成をまとめる
6	報告と討議①　論文構成における準備状況の確認	状況報告の準備と考察
7	報告と討議②　論文構成の見直しの有無確認	状況報告の準備と考察
8	報告と討議③　論文構成の具体的なタイムスケジュール	状況報告の準備と考察
9	研究調査の再検討①　追加調査およびデータ収集の再確認	追加調査等の検討
10	研究調査の再検討②　収集データの分析方法の再確認	追加調査等の検討
11	報告と討議④　データ分析における適合性と実証性	データ分析･考察等の再検討
12	報告と討議⑤　研究目標とデータ分析結果の整合性	データ分析･考察等の再検討
13	中間発表の準備①	中間発表の準備に取り組む
14	中間発表の準備②	中間発表の準備に取り組む
15	中間発表を踏まえて、現時点での課題･計画を再検討	論文の流れを再検討
16	論文執筆指導①　論文執筆の概要	論文執筆作業に取り組む
17	論文執筆指導②　目次設定と章立ての構成	論文執筆作業に取り組む
18	論文執筆指導③　研究背景･概要、結果の分析と考察	論文執筆作業に取り組む
19	論文執筆指導④　参考文献・引用文献等の扱い	論文執筆作業に取り組む
20	報告と討議⑥　執筆状況の報告	論文執筆作業に取り組む
21	報告と討議⑦　執筆内容の確認	論文執筆作業に取り組む
22	報告と討議⑧　論文執筆状況に応じた今後の流れを確認	論文執筆作業に取り組む
23	論文執筆指導⑤　書式全般（引用・表・図・注など）の点検	論文執筆作業に取り組む
24	論文執筆指導⑥　論文内容と分析結果の学術性･倫理性の再検討	論文執筆作業に取り組む
25	論文執筆指導⑦　研究のまとめと今後の課題	論文執筆作業に取り組む
26	論文執筆指導⑧　日本語教育への貢献と応用の考察	論文執筆作業に取り組む
27	修士論文の仮提出	仮提出の準備
28	修正部分のチェック	論文の修正作業と本提出の準備
29	修士論文の本提出	最終試問の準備
30	修士論文の最終試問および最終発表に向けて準備	最終発表の準備
31	全体のまとめ	振り返りとまとめ

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 研究テーマに応じて講義内で案内します。他に、研究遂行のために次の文献をお勧めします。 ・末田清子、抱井尚子、田崎勝也、猿橋順子 編（2011）『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版 ・舘岡洋子 編（2015）『日本語教育のための質的研究入門』ココ出版 ・太田裕子 著（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書
	学びの手立て 修士論文の完成までは、①問題意識と関連の先行研究の分析、②社会貢献につながる研究テーマの設定と研究計画、③緻密な研究調査の遂行と分析、④研究調査の結果まとめ、⑤論文執筆と公表、という段階が必要です。皆さんは現在どの段階まで進んでいますか。自分の現時点をしっかり把握し、スムーズに修士論文の完成までつなげていけるよう頑張ってください。
	評価 ＜平常点40点＞　特殊研究内での討議および発表などを評価。 ＜調査分析と論文作成60点＞　論文遂行の状況と論文作成結果を評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 研究成果をもとに、学会発表および学会誌への論文投稿等を目指しましょう。 また、みつけた今後の課題に基づき、次の研究ステップに進むことも是非考えてください。

※ポリシーとの関連性　社会のニーズや進展に必要な専門的技術を確実に身に付け、将来は専門家として地域社会・国際社会に貢献できる人材育成を目指す。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語教育特殊研究ⅡＤ	通年	火５	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚　真貴子	２年	syo@okiu.ac.jp 研究室　5410	

学びの準備

ねらい

春季休暇中に実施した調査の確認及び先行研究のまとめの確認を行い、必要があればテーマの調整も行う。研究の意義、独自性をしっかり意識しながら進めていく。そして、修士論文の構成を最終的に考え、中間発表を行う。また、先行研究との比較検証を継続的に行い、結果をまとめ、精査を繰り返し、結論を導き出し仕上げる。その後、修士論文を提出し、修士論文最終発表会の運びとなる。

メッセージ

いよいよ2年目です。関連分野や文献を更に分析的に読み進め、それを各自の修士論文で議論や比較検証を行い、結論・考察・まとめへと導いていってください。社会貢献、今後の職業にもつながるような独創的で意義のある研究を完成させてください。

到達目標

・中間発表を第一の目標とする。そのために、先行研究の研鑽を基礎として、研究の動機や目的、研究の方法を確実なものにし、実施した調査の分析と考察から仮説の検証を行う。
・第二の目標である最終発表までに、結論を導き、まとめあげていく。先行研究との比較検証を恒常的に行い、精査を繰り返し、論を展開させるという一連の緻密な作業を通して研究姿勢を培い、日本語教育の専門家として成長していくことが、最終的な到達目標となる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（登録及び本学期の目標や進め方の確認、学会参加の奨励等）	執筆（先行研究のまとめ）
2	春季休暇中の調査・研究の実施状況の報告と確認	執筆（先行研究のまとめ）
3	テーマの再確認、目次・構成の構築、作業計画、及び修士論文概要を作成する。	執筆（先行研究のまとめ）
4	調査手法の再確認、必要とされる事項の再確認	執筆（先行研究のまとめ）
5	調査の進捗状況の報告、問題点等の確認	調査結果のまとめ
6	調査結果の分析と考察①	調査結果のまとめ
7	調査結果の分析と考察②	調査結果の分析と考察
8	仮説の検証①	調査結果の分析と考察
9	仮説の検証②	執筆（本論）
10	先行研究との比較検証①	執筆（本論）
11	先行研究との比較検証②	執筆（本論）
12	調査のまとめと課題①	執筆（本論）
13	調査のまとめと課題②	執筆（本論）
14	中間発表に向けての流れの確認、資料作成	中間発表の準備
15	参考文献、資料リストの再確認	中間発表の準備
16	中間発表のリハーサルと最終確認	中間発表の準備
17	夏季休暇期間中の進捗状況と課題の確認	執筆（本論）
18	中間発表における指導を受け、論文の構成、内容の再考①	執筆（序論・本論）、構成の確認
19	中間発表における指導を受け、論文の構成、内容の再考②	執筆（序論・本論）、構成の確認
20	結論への導き①	執筆（結論）
21	結論への導き①	執筆（結論）
22	結論の確認と検証①	執筆（結論）
23	結論の確認と検証②	執筆（全体の確認）
24	最終確認（先行研究との比較検証等）①	執筆（全体の確認）
25	最終確認（先行研究との比較検証等）②	執筆（全体の確認）
26	まとめ（最終発表へ向けての論文の精査）①	総仕上げ
27	まとめ（最終発表へ向けての論文の精査）②	総仕上げ
28	最終発表の準備（修士論文の構成を流れの最終確認）①	最終発表の準備
29	最終発表の準備（修士論文の構成を流れの最終確認）②	最終発表の準備
30	最終発表用の資料の作成	最終発表の準備
31	最終発表のリハーサルと最終確認	授業の振り返り

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 関連資料などは適宜配布し指導を行うが、基本的には各自が参考文献や論文を見いだし、議論の場に提供すること。
	学びの手立て 専門書を数多く読み込み、専門教員の指導や同志との意見交換や議論から学び、複眼的な視点を持って検証・推敲を重ね、結論を導いていってください。
	評価 出席率、授業への貢献度(10%)、研究の内容や研究手法(10%)、そして結論を導き出すまでの論文執筆に関わる一連の取り組み(80%)を総合的に判断し、評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門家としての就職、あるいは博士課程ということになるので、修士課程で研究を深めた専門的内容をそれぞれの分野でのニーズや進展に応えられるよう貢献していってください。今後のご活躍を祈ります。

※ポリシーとの関連性　「やさしい日本語」の理念を通して、広い領域の知識に興味・関心を持ち、変化する社会に対応できる能力を養う。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	言語とメディア	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-庵　功雄	1年	問い合わせ先のメールアドレスは授業時にお知らせします。	

学びの準備

ねらい

「やさしい日本語」が目指す「多文化共生社会」の実現は、日本だけでなく、世界各国で求められています。しかし、その実現には数多くの問題点があることも事実です。今回の講義では、「やさしい日本語」の理念とその実際を学ぶことを通して、現在の日本や世界が抱える問題を考えるきっかけを掴んでほしいと思います。

メッセージ

「やさしい日本語」ということばを聞いたことがあるでしょうか？聞いたことがある人もない人も「やさしい日本語」というのは「外国人のために日本人が「してあげる」こと」と考えているかもしれません。この講義では、そうした認識が誤りであり、「やさしい日本語」について理解することはみなさん自身にとってとても役に立つということを示してみたいと思っています。

到達目標

「やさしい日本語」の理念を理解し、その理念実現のために行われている「やさしい日本語」研究の実相についての知識を得る。そのことを通して、異文化理解、多文化共生に必要な問題解決能力を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	「やさしい日本語」の理念	テキスト第1章を事前に読む
2	「やさしい日本語」の歴史	岩田（2013）を事前に読む
3	外国人に対する情報提供のあり方	テキスト第2章を事前に読む
4	居場所作りのための「やさしい日本語」①：地域社会の共通言語	テキスト第2章を事前に読む
5	ミニマムの文法としてのStep1, Step2	テキスト第3章を事前に読む
6	居場所作りのための「やさしい日本語」②：地域型初級	テキスト第3章を事前に読む
7	バイパスとしての「やさしい日本語」	テキスト第4章を事前に読む
8	多文化共生に必要なこと	テキスト第4章を事前に読む
9	ろう児に対する日本語教育と「やさしい日本語」	テキスト第5章を事前に読む
10	マジョリティにとっての「やさしい日本語」	テキスト第6章を事前に読む
11	日本語表現の鏡としての「やさしい日本語」	庵（2015）を事前に読む
12	異文化理解と「やさしい日本語」	日本独特の慣習について考えておく
13	日本語表現にとって「やさしい日本語」が持つ意味	庵（2021）を事前に読む
14	2つの「やさしい日本語」：Easy JapaneseとPlain Japanese	庵（2022）を事前に読む
15	マインドとしての「やさしい日本語」	庵（2019）を事前に読む
16	まとめ	講義の内容を整理しておく

テキスト・参考文献・資料など

テキスト　庵功雄（2016）『やさしい日本語―多文化共生社会へ』岩波新書（受講者は各自で購入の上、授業開始時までに通読しておいてください）　参考文献・資料　授業開始までのできるだけ早い時期に公開します。

学びの手立て

講義開始前にテキスト及び指定された参考文献を読んでおいてください。講義の内容を現在の日本社会のあり方と結びつけて考えてみてください。そこで現れてきている諸問題に対して日本語教育、日本語研究ができることは何かについて考えながら受講してください。

評価

期末レポート70%、小テスト20%、平常点10%で評価します。期末レポートについては、「やさしい日本語」に関する問題を、現在の日本社会や受講者自身の問題として考えているものを高く評価します。小テストは講義の内容の理解度を基準に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

日本語教育、日本語研究が現在の日本社会とどのように関わっているか、関わることができるか、関わるべきかといったことについて受講者自身の問題として考え続けてほしいと思います。

※ポリシーとの関連性　言語教育学領域において、ことばと社会の相互関係に関する理解を深めるための専門的知識を習得する専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会言語学特論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木６	2
担当者 李　イニッド	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室を訪問するときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、社会言語学の諸分野に関する基礎知識、理論及び研究方法を学び、研究実践に繋げることを目的とする。

メッセージ

①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。

到達目標

①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。
②学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業時に指示する
2	社会言語学とは（研究領域と調査方法）	授業時に指示する
3	ミクロ vs.マクロ社会言語学	授業時に指示する
4	言語の選択	授業時に指示する
5	バリエーション・変化	授業時に指示する
6	言語とジェンダー・年齢	授業時に指示する
7	言語と民族・地域性	授業時に指示する
8	社会階層・言語意識	授業時に指示する
9	スタイル・コンテキスト・レジスタ	授業時に指示する
10	言語接触	授業時に指示する
11	言語の維持・シフト・消滅危機	授業時に指示する
12	言語政策と計画	授業時に指示する
13	第二言語習得・異文化コミュニケーション	授業時に指示する
14	研究の進め方	授業時に指示する
15	研究計画（１）	授業時に指示する
16	研究計画（２）	授業時に指示する

テキスト・参考文献・資料など

配布資料（英語・日本語）

学びの手立て

①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。

評価

授業参加態度(30%)、レポート(40%)及び口頭発表(30%)による総合評価。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「マルチリンガル教育特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」

※ポリシーとの関連性　異文化理解

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	多文化間教育特論	後期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井上　泉	１年	研究室（9-510）またはメール	

学びの準備

ねらい

本科目では、多文化共生社会における教育、とくに翻訳通訳を通した特徴や諸課題を主として採り上げる。

メッセージ

通訳翻訳は多文化共生社会を実現するうえで欠くべからざるものです。多様な視点からグローバル化する社会を考える機会になれば幸いです。本教科の詳細は１週目にUnit Outlineの形で配布します。

到達目標

- 多文化共生社会における言語・文化の役割を理解している。
- 多文化共生社会でカギとなるコミュニティ翻訳通訳の基礎的な諸概念を理解している。
- 多様な文化的背景を有する人々との交流において、翻訳通訳の意義および役割を体験的に理解している。
^ 国による言語・文化的な多様性の類似点・相違点を理解している。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	[特]多文化共生社会とは	
2	[特]多文化共生社会と言語・文化	文献講読
3	[特]多文化共生社会における文化的な側面の教育	文献講読
4	[特]翻訳通訳の理論的メカニズム	文献講読
5	[特]翻訳通訳の理論的メカニズム	実習課題に各自取り組むこと
6	[特]翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと
7	[特]通訳実習	実習課題に各自取り組むこと
8	[特]翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと
9	[特]通訳実習	実習課題に各自取り組むこと
10	[特]翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと
11	[特]通訳実習	実習課題に各自取り組むこと
12	[特]翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと
13	[特]通訳実習	実習課題に各自取り組むこと
14	[特]翻訳実習	プレゼンテーションの準備
15	[特]グループプロジェクト	プレゼンテーションの準備
16	[特]まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

指定教科書はありません。Google Classroomにて随時資料を配布します。

学びの手立て

翻訳・通訳では事前の十分なリサーチが必要になります。各自手間暇をかけて行ってください。

評価

授業への参加姿勢：10% 理論・実習タスク：30% 振り返り：20% Reflective Essay：40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

学んだことを修士論文に応用してみましょう

※ポリシーとの関連性　日本語学・日本語教育学に関する専門的な知識を資料の読み込みと対話を通して進めていきます。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 日本語学特論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月４	2
担当者 下地　賀代子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：5-401 Email：kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この授業では、現代日本語の文法論や日本語教育における様々なカテゴリーについて理解を深めることを目的とします。関連文献を精読し、それぞれのカテゴリーに関する議論の流れをふまえた上で、問題点についての報告とディスカッションを行います。

メッセージ

活発な議論を期待しています。

到達目標

日本語文法論に関する学問的動向について理解し、日本語教育にも関わる専門的な知識を身に付けていきます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

おおむね以下のように進めていきます。

・ガイダンス
・日本語文法論の基礎的事項の概説および確認
・検討するカテゴリーの選択
・文献の精読
・ 以下の項目に関する報告
　ー選択したテーマ・内容に関する先行研究の分析
　ー疑問点、問題点
・報告内容に関するディスカッション
・レポートについて

なお、受講人数によって報告の回数を決定します。

テキスト・参考文献・資料など

講義内において資料を紹介、または配布します。

学びの手立て

各自の興味関心に基づいて報告対象とするカテゴリーを決めていきます。修士論文に関わらせるのもよいです。

評価

（１）分析・考察の進め方、報告内容（30%）
（２）質疑応答など、授業への積極的な関わり方（20%）
（３）レポートの提出とその内容（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

各自の修論のテーマの先行研究になりうる項目の論文を選び、精読・分析し、課題を見いだし次のステージに繋げましょう。

※ポリシーとの関連性　日本語教育分野の知識やスキルを身につけ、国内外で活躍する人材を育成する。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 日本語教育学特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火５	2
担当者 李　ヒョンジョン	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義の前後に受け付ける。	

学びの準備

ねらい

この講義では、今日における「社会・言語・文化」の関連という観点から日本語教育とは何かを考えていく。教員による講義に加えて文献購読およびディスカッションを交えながら、日本語教育学を学ぶうえで必要とされる知識･態度について考察する。また、講義や文献などを通して自分なりの教育的視点をしっかり持つことで、日本語教育世界に対する意識を高めていくことを目指す。

メッセージ

多文化共生社会における日本語教育では、新たな教育観や新たな教師と学習者の関係作りなどが求められています。この講義を通して、学生に「伝授する・させる」教育ではなく、「共に見つける」教育を考えていきましょう！

到達目標

・文献購読とディスカッションを通して、日本語教育学の動向を把握することができる。
・文献を批判的に読んで考察することで、自らの教育観を再認識することができる。
・日本語教育の様々な領域における現状問題と課題を見つけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	今学期の設定
2	日本語教育学とは？	文献購読、レジュメ作成･報告準備
3	世界の日本語教育①　海外における日本語学習者	文献購読、レジュメ作成･報告準備
4	世界の日本語教育②　海外における日本語教師と日本語環境	発表準備
5	ミニ発表①	文献購読、レジュメ作成･報告準備
6	日本語教育の動向と日本語教育推進法	文献購読、レジュメ作成･報告準備
7	学習者の多様化①　留学生教育	文献購読、レジュメ作成･報告準備
8	学習者の多様化②　年少者日本語教育	文献購読、レジュメ作成･報告準備
9	学習者の多様化③　地域の日本語教育	文献購読、レジュメ作成･報告準備
10	学習者の多様化④　その他(介護･看護、労働者など)の日本語教育	発表準備
11	ミニ発表②	文献購読、レジュメ作成･報告準備
12	第二言語習得と学習者の個別性	文献購読、レジュメ作成･報告準備
13	日本語教育と異文化コミュニケーション	文献購読、レジュメ作成･報告準備
14	どう教えるか？どう評価するか？	レポート作成と発表準備
15	期末レポートと最終発表	期末発表によるピア評価
16	まとめ	全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

随時プリントを配布する。
・国立国語研究所 編（2006）『日本語教育の新たな文脈』アルク
・遠藤織枝（2011）『日本語教育を学ぶ - 第二版 - 』三修社
・遠藤織枝（2020）『新 日本語教育を学ぶ』三修社　など

学びの手立て

・講義で扱う文献の他に、日本語教育学に関連する文献をできるだけ読み込むことで、日本語教育の全般における知識を深め、教育における多様な視点を身につけましょう。
・関連研究会や学会などに関心を持つことで、日本語教育の動向を把握しましょう。
・講義を通して得た視点を、自分の研究内容および手法にしっかりつなげていきましょう。

評価

文献購読と報告・ディスカッション（50%）、ミニ発表およびレポートなど（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期の「日本語教育学特論Ⅱ」も受講しましょう。

※ポリシーとの関連性　日本語教育分野の知識やスキルを身につけ、国内外で活躍する人材を育成する。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 日本語教育学特論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火５	2
担当者 李　ヒョンジョン	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義の前後に受け付ける。	

学びの準備

ねらい

「日本語教育学特論Ⅰ」に続き、今日における日本語教育とは何かについて考えていく。多文化共生時代の到来とともに変化しつつある今日、日本語教育世界でも従来とは異なる学習目標･環境および支援方法が求められている。この講義は、今日における日本語教育のあり方について考察していくことで、日本語教育学における新たな視点を持つことがねらいである。

メッセージ

多文化共生社会における日本語教育では、新たな教育観や新たな教師と学習者の関係作りなどが求められています。この講義を通して、学生に「伝授する・させる」教育ではなく、「共に見つける」教育を考えていきましょう！

到達目標

・文献購読とディスカッションを通して、日本語教育学における新たな視座を得ることができる。
・日本語教育における多様性を認識し、現状問題と課題について新たな教育観で考察していくことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	今学期の設定
2	ことばと文化を結ぶ日本語教育	文献購読、レジュメ作成･報告準備
3	自らの言語教育観を持つ	文献購読、レジュメ作成･報告準備
4	社会文化的アプローチから日本語教育を考える	文献購読、レジュメ作成･報告準備
5	学習者主体と文化リテラシー	発表準備
6	ミニ発表①	文献購読、レジュメ作成･報告準備
7	学習を見直す	文献購読、レジュメ作成･報告準備
8	協働学習・体験型学習	文献購読、レジュメ作成･報告準備
9	IT、メディア等を用いた日本語教育	文献購読、レジュメ作成･報告準備
10	アセスメントと日本語教育	発表準備
11	ミニ発表②	文献購読、レジュメ作成･報告準備
12	学習者の自律と教師の支援①	文献購読、レジュメ作成･報告準備
13	学習者の自律と教師の支援②	文献購読、レジュメ作成･報告準備
14	学習者の自律と教師の支援③	文献購読、レジュメ作成･報告準備
15	期末レポートと最終発表	レポート作成と発表準備
16	まとめ	全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

随時プリントを配布する。
・佐々木倫子 他（2007）『変貌する言語教育-多言語･多文化社会のリテラシーズとは何か - 』くろしお出版
・末田清子 編（2011）『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版
・蒲谷宏、細川英雄（2012）『日本語教育学序説』朝倉書店　など

学びの手立て

・講義で扱う文献の他に、日本語教育学に関連する文献をできるだけ読み込むことで、日本語教育の全般における知識を深め、教育における多様な視点を身につけましょう。
・関連研究会や学会などに関心を持つことで、日本語教育の動向を把握しましょう。
・講義を通して得た視点を、自分の研究内容および手法にしっかりつなげていきましょう。

評価

文献購読と報告・ディスカッション（50%）、ミニ発表およびレポートなど（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

・「言語教育実習Ⅱ」を通して実践的スキルを養いましょう。
・「言語教育特殊研究」を通して修士論文作成に力を入れていきましょう。

※ポリシーとの関連性

[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語論文の書き方Ⅰ	前期	月６	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋　美奈子	１年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この授業では、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。前期は、論文の定義を始めとした実質的条件を学び、その後、論文の形式的条件、例えば、論文の組み立て方や論文を書くために知っておくべきルールを学ぶ。最終的には自身の修士論文のテーマに沿った論文構成の作成を目指す。

メッセージ

修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になれたらと思っております。修士論文提出までがんばりましょう。

到達目標

１．論文と他の文章の違いを理解できる。
２．論文執筆までの手順がわかる。
３．論文の構成や体裁など、論文の形式的なルールについて理解できる。
４．論文を書くために必要な文献収集や図書館の使い方などがわかる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	修士論文の収集
2	修士論文の実際	執筆要項の収集
3	修士論文執筆要領	課題（ワークシート等）の遂行
4	学術論文とは何か	課題（ワークシート等）の遂行
5	論文の構成	課題（ワークシート等）の遂行
6	テーマの設定	課題（ワークシート等）の遂行
7	先行研究の収集	課題（ワークシート等）の遂行
8	先行研究の検索	課題（ワークシート等）の遂行
9	先行研究の読み方	課題（ワークシート等）の遂行
10	先行研究の整理	課題（ワークシート等）の遂行
11	形式的な要件	課題（ワークシート等）の遂行
12	論文でよく使われる表現	課題（ワークシート等）の遂行
13	引用・要約の方法	課題（ワークシート等）の遂行
14	参考文献・引用文献の書き方	課題（ワークシート等）の遂行
15	注の付け方	課題（ワークシート等）の遂行
16	論文構成と論文執筆計画の提出	最終レポートの作成

テキスト・参考文献・資料など

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部
浜田麻里　他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版
河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房
細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書

学びの手立て

基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。

評価

１．平常点（60点）：各回の課題提出、議論、発表などの評価
２．最終レポート（40点）：修士論文の構想レジュメならびに「論文とは何か」のレポートの提出による評価

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期の「日本語論文の書き方II」はこの科目の継続科目です。「日本語論文の書き方II」では、前期に学んだことを実践していきますので、適宜、テキストや参考文献等をよく読み、復習をしておいてください。

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本語論文の書き方Ⅱ	後期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋　美奈子	１年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この授業では、前期の「日本語論文の書き方I」に引き続き、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。後期は、前期で作成した論文構想に従って、論文の草稿（序論）を執筆することを目指す。さらに、修士論文の一部を研究会で発表あるいは紀要等の研究雑誌論文への投稿を目指す。

メッセージ

修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になれたらと思っております。修士論文提出までがんばりましょう。

到達目標

１．論文に必要な先行研究の収集ができる。
２．論文の形式的なルール（引用の仕方、論文構成、注の書き方など）に従って、論文を書くことができる。
３．論文の序論を書くことができる。
４．研究会や学会等の発表要領、紀要等の研究論文執筆要領を理解し、それに従った申請書を書くことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	修士論文構想の作成
2	論文の構想発表	研究テーマの作成
3	「研究テーマ」（テーマ設定の理由）を書いてみよう	目的と方法の作成
4	「研究の目的と方法」を書いてみよう	先行研究の章の作成
5	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう１	先行研究の章の作成
6	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう２	先行研究の章の作成
7	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう３	調査データのとりまとめ
8	扱うデータを紹介してみよう	データ分析のとりまとめ
9	データの分析をしてみよう１	データ分析のとりまとめ
10	データの分析をしてみよう２	調査結果の章の作成
11	データの提示の仕方を工夫してみよう	調査結果の章の作成
12	研究会・学会等での口頭発表要領ならびに論文執筆要領を理解しよう	執筆要領の収集
13	研究発表の申請書作成	申請書の作成
14	研究発表の予稿集作成	予稿集の作成
15	研究発表のスライド（レジュメ）作成	発表スライドの作成
16	口頭発表・PPTの発表	最終発表レジュメとPPTの作成

テキスト・参考文献・資料など

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部
浜田麻里　他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版
河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門　第4版』慶應義塾大学出版会
道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房
細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書

学びの手立て

基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。

評価

１．平常点（60点）：各回の課題提出、議論、発表などの評価
２．最終レポート（40点）：修士論文の「序論」および研究会発表要旨・紀要等への研究要旨の提出による評価

学びの継続

次のステージ・関連科目

次なるステージは、やはり修士論文の執筆です。データの収集・分析・考察などかなり時間を要しますが楽しい作業です。がんばってください。〃

※ポリシーとの関連性　言語教育学領域において、多言語社会と多言語教育をめぐる諸課題について様々な観点から考察する専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マルチリンガル教育特論	前期	木６	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李　イニッド	１年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

多言語教育のあり方をめぐって、その可能性や諸課題も含め、総体的に考察することを目標とする。多言語教育の理論と実践を学び、様々な多言語社会の事例研究や諸問題について考える。

メッセージ

①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。

到達目標

マルチリンガル教育に関する論文や研究資料の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。
また、学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業時に指示する。
2	用語の定義	授業時に指示する。
3	マルチリンガル教育とは	授業時に指示する。
4	マルチリンガル育成の理論的モデル	授業時に指示する。
5	転移とマルチリンガル育成	授業時に指示する。
6	マルチリンガル育成を支える心理的要因	授業時に指示する。
7	マルチリンガル育成を支える社会的・文化的要因	授業時に指示する。
8	教育現場における多言語化の現状	授業時に指示する。
9	教育現場における多言語化の課題	授業時に指示する。
10	多言語社会と言語教育政策	授業時に指示する。
11	マルチリンガルとアイデンティティ	授業時に指示する。
12	マルチリンガルの言語と認知	授業時に指示する。
13	多言語維持	授業時に指示する。
14	マルチリンガル教育の貢献	授業時に指示する。
15	研究計画（１）	授業時に指示する。
16	研究計画（２）	総復習

テキスト・参考文献・資料など

配布資料（英語・日本語）

学びの手立て

①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。

評価

授業参加態度(30%)、レポート(40%)及び口頭発表(30%)による総合評価。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「社会言語学特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」

※ポリシーとの関連性　「ヨーロッパ」に関する考察を深めながら、多文化共生社会についての意識とその実現へと向かう行動力を高めます。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 ヨーロッパ文化特論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木５	2
担当者 上江洲　律子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	沖国大ポータルのGmailにて質問してください。	

学びの準備

ねらい

「ヨーロッパ」（主にフランス）を主題とする小説や映画などの創作作品を通して、「ヨーロッパ」に関する知識を獲得するだけではなく、そこに内包されているものを汲み取る力を高めることを目的とします。そして、「ヨーロッパ」と「日本」を比較しながら考察を深めて、普遍的というべき人間社会の実現に向けた行動を促す意識の育成を目指します。

メッセージ

「ヨーロッパ」とは何でしょうか？その問いに対する答えを自分自身で求めながら、自分自身の在り方や社会の在り方についてあらためて考えてみましょう。

到達目標

「ヨーロッパ」（主にフランス）を主題とする創作作品（小説や映画など）について、そこに示唆されることも含めて表象されていることを見出して言語化するだけではなく、「日本」との比較を行いながら人間社会の普遍的な在り方に関する意見を構築して言語化できるようになることを目指します。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	課題の作成
2	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（１）	課題の作成
3	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（２）	課題の作成
4	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（３）	課題の作成
5	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（４）	課題の作成
6	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（５）	課題の作成
7	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（６）	課題の作成
8	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（７）	課題の作成
9	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（８）	課題の作成
10	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（９）	課題の作成
11	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（１０）	課題の作成
12	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（１１）	課題の作成
13	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（１２）	課題の作成
14	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（１３）	課題の作成
15	ヨーロッパを主題とする創作作品についての考察と発表（１４）	課題の作成
16	まとめ	復習

テキスト・参考文献・資料など

授業内で必要に応じて参考文献の紹介や資料の配付を行います。

学びの手立て

フランスの批評家ロラン・バルトは「テクストは引用の織物である」と語りました。創作作品を編み上げている「引用」について、また、その「引用」がどのように編み上げられているのかということについて、常に意識するようにしましょう。

評価

最終課題（批評文）の得点（60%）と平常点（40%）で評価します。
※ただし、単位修得のためには授業の３分の２以上の出席を義務づけます。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この授業を通してさらに高められた「汲み取る力」「自分の意見を構築する力」「認識していることを言語化する力」を、今後、英米文学領域と言語教育学領域の全ての科目で活かしてください。